

徳之島町

教育委員会名：徳之島町教育委員会

住 所：鹿児島県大島郡徳之島町亀津 2918

電 話：0997-82-1308

I 都道府県・指定都市の現状と取組

1 安全上の課題

人 口：約1万人（うち児童・生徒数：956人）

学校数：幼稚園4園 小学校8校

中学校6校 高等学校2校

安全上の課題

- (1) 離島の特性上、災害時の避難場所や経路の確保が難しく、頻発する台風への防災意識は高い一方、地震・津波に対する防災意識はやや低い。
- (2) 児童生徒に対する防災教育の推進や、災害発生時における学校の対応と役割、保護者・地域との連携について、体制が十分に確立されていない。

2 事業目標

- (1) 全ての学校に中核となる教員を位置付け、学校安全（防災）の取組を推進する。
- (2) 児童生徒自らが考え実践する防災モデル授業の開発や、効果的・実践的な避難訓練の実施、危機管理マニュアルの見直しを町内学校に還元する。
- (3) 地域ぐるみで取り組む実践的防災活動と避難体制を構築する。

3 モデル地域選定の理由

拠点校である東天城中学校は、徳之島北部に位置する小規模校である。目前に雄大な海岸線を臨む自然豊かな立地にある。東天城中学校を中心とした「東母花地区」は、母間小学校・花徳小学校と共に外洋に面した立地にあり、南海トラフ地震級の巨大地震が発生した場合、津波による甚大な被害を被る危険性が非常に高い。更に主幹道路も海岸沿いにあり、津波発生時には、交通・物流経路が遮断され、救助や避難活動も困難を極めることが予想される。

このような実態を踏まえ、本地区を防災モデル地域として選定することで、いち早く地域ぐるみで防災意識の高揚を図り、実効性のある防災教育や避難のあり方について研究を深めていきたい。

4 取組の概要

(1) 学校安全体制の構築に係る取組及び成果の普及方法について

ア 各校の管理職及び防災担当中核教員、教育委員会、校区内の自治会組織関係者等による実践委員会や研修会等を定期で開催し、協働しながら継続的な実践につなげていく。

イ モデル地域の中核教員を中心に先進地視察や研修会等へ参加させ、防災教育に係る資質・能力を高めるとともに、先進的な取組や情報を共有し、実践委員会や外部の研修会等で報告することで、研修内容を広く町内へ普及する。

ウ 中核教員は、各校の進捗状況や成果・課題等を情報交換し、各校における実践を修正しながら研修を推進する。また、校区関係者と連携し避難訓練を合同で実施するなど、本事業への協力要請をしながら活動の充実を図る。

エ 本事業の2年間の取組の成果を生かして、次年度の研修内容や推進計画を立案し、各校の教育課程に位置付けていく。

(2) 学校安全の中核となる教員の育成や資質能力の向上に係る取組について

ア 県専門防災アドバイザーによる指導講話

防災教育の第一人者である鹿児島大学井村准教授に地震及び津波に関する指導助言をいただいた。井村准教授には、今年度も引き続き本町の防災教育推進のために、アドバイスをいただくことを確認した。

日 時：令和3年7月12日（月）

会 場：鹿児島大学共通教育センター

講 師：井村 隆介氏（鹿児島大学准教授）

訪問者：下井田 智彦、貞 優樹

（徳之島町教育委員会学校教育課）

イ 東天城中学校による防災教育自主公開

学校安全総合支援事業の拠点校である東天城中学校が、本事業の成果を還元することを目的に自主公開を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、徳之島三町の学校関係者に参加を限定し公開を行った。

日時：令和3年10月8日（金）

会場：徳之島町立東天城中学校体育館

出席者：井村准教授、龍保健体育課長、福教育長など、計51名

(ア) 実践発表

東天城中学校の防災担当中核教員が、本事業の2年間の取組や生徒に行ったアンケート結果等の発表を行った。東天城中学校が総合的な学習の時間に行っているレスキュータイムの実際や、防災に対する生徒の意識の意識の変化等を、写真やグラフ等を用いて分かりやすく説明することができた。

(イ) 公開授業

「もし、学校が避難所になったら」という設定で、東天城中学校の全生徒を対象に公開授業を行った。生徒は、防災に関するこれまでの知識を基に、避難所運営ゲームで擬似的に体験しながら理解を深める姿が見られた。



(ロ) 分科会

分科会では、本事業の提携校である母間小学校と花徳小学校の中核教員が中心となり、「災害時における協働の姿勢を育成するためにはどのような防災教育が必要か。」というテーマで研究協議を行った。参加された先生方は、活発な意見交換を通して、防災教育に関する理解を一層深める様子が見られた。

(ハ) 指導講話

鹿児島大学准教授の井村先生が、「子どもを守るこれからの防災教育、防災体制の在り方について」というテーマで指導講話を行った。指導講話では、東日本大震災の復興に関わった経験や南海トラフ地震で想定される被害などについて分かりやすく説明するとともに、本町の防災教育推進の新たな視点をいただくことができた。

ウ 防災教育講演会

鹿児島大学井村准教授を講師に招き、防災教育講演会を開催した。講演を通して、地域の方にも防災教育の重要性を伝えるとともに、防災に対する意識の高揚を図ることができた。

日時：令和3年10月29日（金）

会場：徳之島町立東天城中学校体育館

エ 東天城中学校校舎新築推進委員会

令和5年度完成予定の東天城中学校新校舎建築に向けて、推進委員会を立ち上げた。推進委員会は、学校代表、PTA役員、地域代表、教育委員会で構成し、「地域の防災拠点を兼ねた新校舎の在り方」を柱に協議を行っている。今年度は、3回の推進委員会を行い、来年度も引き続き開催していく予定である。

オ 防災先進地の視察研修

本町の防災教育推進を図る目的で、令和4年2月に防災先進地に代表職員を派遣する計画を立てていた。計画では、神奈川県藤沢市教育委員会の協力をいただき視察を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大により、やむを得ず視察研修を中止にすることにした。

(3) その他の主な取組について

実践委員会の開催（令和4年1月）

学校、地域、消防、行政機関等が一堂に会し、防災の推進を協議することができた。当初は、年2回実施する予定であったが、1回目の6月は、新型コロナウイルス感染症拡大により実施を見送ることにした。

令和3年度県学校安全優良学校表彰（令和4年2月）

東天城中学校が、これまでの学校安全に係る取組が認められ、令和3年度鹿児島県学校安全優良学校に選出され表彰をいただいた。

5 成果と課題

【成果】

- 拠点校である東天城中学校を中心に防災教育に係る成果を広く還元することで、本町の防災意識の高揚を図ることができた。
- 専門家による指導を通して学校や地域が果たすべき防災教育の重要性を再認識できた。

【課題】

- 防災教育に係る取組が、学校だけで完結している場合が多い。今後は、学校と地域、行政が緊密に連携を図り、避難訓練を実施したり、防災マニュアルを見直したりする必要がある。